

「リクルート次世代教育研究院」 オフィシャルサイトオープン

横浜市立旭中学校での アダプティブラーニング共同実証実験も同時に開始

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山口 文洋）が運営する、リクルート次世代教育研究院（院長：小宮山利恵子）は、この度オフィシャルサイトの運営を開始しましたことをお知らせすると同時に、横浜市旭中学校（校長：藤岡謙一）とのアダプティブラーニングの共同実証実験を開始致しました。

ICT（テクノロジー）、先進教育で 子どもの教育環境格差の解消に立ち向かう

リクルート次世代教育研究院は、教育とテクノロジーの融合、子どもの教育環境格差についての分析・研究、未来への提言を行う調査研究機関として、2015年12月に設立致しました。ビッグデータを用いたアダプティブラーニング等のICT教育に関する分析・研究、子どもの教育環境格差についての分析・研究などを実施すると共に、より良い教育の創造に繋がる各種活動を行っています。

今後はオフィシャルサイトを通じて、研究や活動内容の情報を発信して参ります。

■「リクルート次世代教育研究院」サイトについて

○URL

<http://ring.education/>

○サイト内容

- ・ 概要
- ・ 研究院メンバー
- ・ 研究内容一覧



リクルート次世代教育研究院 院長 小宮山利恵子（こみやま りえこ）

1977年生、早稲田大学大学院 修了。衆議院議員秘書、株式会社ベネッセコーポレーション 福武会長（当時）秘書、グリーン株式会社等を経て、株式会社リクルートマーケティング パートナーズ入社。

- ・ 超党派国会議員連盟「教育におけるICT利活用促進をめざす議員連盟」有識者アドバイザー。
- ・ NewsPicksプロピッカー。

〈取材にお答えできます〉
教育環境格差の現状／子どもの貧困と教育／アダプティブラーニング／海外のICT教育先進事例／地方創生と教育の取組について／

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】
http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

■横浜市立旭中学校との共同実証実験について

生徒一人ひとりに最適化されたパーソナライズレコメンドを実施 学習行動および学力向上へ取り組む

東京大学松尾豊准教授および松尾研究室との共同研究で解析した
単元ネットワークを活用し、生徒一人ひとりの苦手を解析していきます。

○実験内容

生徒の苦手を解析して躓かない学習プロセスを提供し、アダプティブラーニングによる学習の効率化を図る

○期間

2016年6月8日から2016年9月30日

○対象

中学1年生～3年生 80名



横浜市立旭中学校 藤岡謙一校長 コメント

これからの学校教育においては、自ら考え、表現する力を育成していくために、授業ではいわゆるアクティブラーニングのような学習方法がますます重要になってきます。そして、そのような授業では、習得に遅れがある子は、議論についていけず、意見も出せず、劣等感や孤立感を今まで以上に強く感じるようになってしまいます。一方で、現実問題として学校の授業や補習だけでは、その子の学習の遅れを取り戻すことは難しい状況です。そのため、これらの子どもたちの家庭学習を充実させ、苦手を克服できる効果的なツールとしてスタディサプリの導入を始めました。

これまでも教員は個々の生徒の習得状況に応じて、授業の工夫や補習を行うなどを行ってきました。しかし、教員が多忙化する中、すべての生徒一人ひとりの学習状況に応じて個別の対応をすることには限界がありますし、教員が効果的な支援をするためにはそれなりの能力と経験が必要です。このような中、ICTの発展により今までよりもはるかに効率的・効果的に生徒の習得状況に応じて、最適な学習を提供できるようになってきています。世の中は、ICTの発展により生活は便利になっており、教育においても、さまざまな面でICTの活用が図られています。特にアダプティブラーニングは、このICTの活用で大きな可能性のある分野だと確信しています。

スタディサプリなども含め、インターネット上には学習コンテンツはそれぞれ無数にあります。しかし、あまたあるコンテンツの中から、自分に最適なものを取捨選択するためにはそれなりの手間暇と能力が必要です。特に学習に苦手意識を持っている子どもたちは、「自分は何が分かっていないのかもよく分からない状態」ですので、自分だけで適切に選ぶことは困難です。先ほど述べた通り教員がすべてを行うことも現実的には難しい状況です。そこで、それまでの生徒の学習状況のログを基にして、最適なコンテンツを示してもらえる仕組みは、とても有効なものだと思います。また、ネット動画による学習は、誰かに強制されてやるものではなく、自分で頑張っている取り組みです。そのため少しでも「分からない」「効果が感じられない」となると一気に生徒の学習熱が冷めてしまいます。そのような中で、生徒のレベルに合った効果的なコンテンツを示していただけることで、生徒のやる気を持続させることができると考えています。